

復興支援フォーラムニュース No. 43

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫 (tkonno67@gmail.com) 中井勝己 (024-548-8313) >

6月20日に開催した第40回ふくしま復興支援フォーラム（渡辺淑彦氏「現時点における原子力損害の賠償状況とその問題点」）は、約40名の参加で活発な議論がなされましたが、会場で提出されたご意見等は、以下の通りです。

~~~~~

★今回はじめてフォーラムに参加させていただきましたが、とても参考になりました。今後も時間が許せば参加したいと考えています。（Y.M）

★健康被害についての時効があるという事を初めて気づいた。また、この損害についての責任の不透明さが、現在の東電の対応に現れていると感じた。私も郡山在住で、自主避難はしませんでした。（H.Y）

★人間、確かに産まれた時から死ぬことは決まっています。でも、ここで最後を迎えようと思っていた高齢者、あるいは認知症高齢者が、自分の最後の場所を自己決定できずに症状の悪化等で、思いを果たすことができなかつた無念さを思うと、非常に腹立たしい。（M.T）

★法律的に解釈できる問題には限界があると常に感じている。とりわけ、今日の損害は過去に例を見ないので、損害論も新しいものを考える必要はあると思うが、政策による救済はどうしても、不可欠だと思う。弁護士になってからも、この問題に取り組んでいきたい。（S.I）

★福島市に居住する私は、今回の賠償の話は、関係ないものである。しかし、福島市内も。仮設に入っている方より（浪江等）、高線量の居住区があり、その私達に対するものは、除染しかないのですが、JAの賠償請求も滞り、このままでは、H24年度分、まだ東電に請求書提出していない。このままでは福島市の1次産業は？（花も実も無い福島市になりつつある）。居住しながら除染、文化国家のやる事でしょうか？子供達がかわいそう。また、将来の福島のためにも考えて欲しい。行政は本当のことを伝えていない。私は今、家・畑で、年間7ミリ位積算があり、畑だけで1日7マイクロ位。1Fのエンジニアより大きいらしい。汚染された農地の賠償は？（M.W）

★金銭賠償の限界、それが通用する前提条件等のがわかって、有益であった。弁護士同士の討論として興味深かった。（S.I）

★原子力損害賠償の問題で、時効が3年というのは、あっという間で、気づいた時には時効で請求が出来なくなるかもしれないというのは、大変なことだと思いました。また浪江町の精神的慰謝料請求35万というのは、法外なものではないというのがよくわかりました。福島市に住む人が、被害について声を上げるのは、損害が個人により大きく異なるので難しいと思いま

すが、被害がなかったことにされるのは、やはり納得がいかないと思いました。(K.Y)

★賠償の問題について、血の通った解決が出来るように監視していきたいと思います。(Y.I)

★自主的避難等対象地域とは言え、どこか人ごとのように思っていた自分の意識が、改めて考えるきっかけになりました。本当に実のある話でした。ありがとうございました。(Y.K)

★地震・津波・原発・風評、そして忘却という五重、六重の苦しみの中で、「フクシマ」は生き続けられないとすれば、先生方のような存在の意義は、ますます大きくなると思います。私もがんばります。先生もガンバレ。(A.Y)

★時間の経過とともに、問題が解決していくどころか、さらに現われ方は様々だけれども、拡大しているのだろうと思う。一見すると、日常は戻っているからなおのこと。責任所在をしっかりと追求していかなくてはならないだろうし、そのための方法の一つが訴訟なのかな。普段「法」とは、それほど身近でない、なかなか出てこない視点でした。(M.K)

★賠償問題は、失われたものは何か？そこから差額を賠償、金銭に算出する制度であり、被災者それぞれの現在のフクシマ問題を解決するためには、原状回復を求める争いでしか路は開けないようである。政策転換つまり近代国家の負の実事をみつめて、次の自分達(主権者)の国家と制度を作るために、今、被災者の合意形成づくりと継続が要ると思った。(T.S)

★福島の人はずいとおとなしいのか、と疑問に思っています。「お金ではない」方法は、何かないのかと感じた。(Y.I)

★常々、賠償闘争に疑問をもっていました。弁護士さんの熱意はよくわかりましたが、始めの疑問は、まだ解決できません。(S.M)

★自主的避難区域についての賠償について、ADRは冷たいという話でした。ADRに期待していましたが？残念でした。弁護士の皆さんが、報酬を度外視して、東電に対して戦っている姿に感銘を受けました。(Y.W)

★被災者の方々に対する、法的な支援の複雑な厳しい現状を知ることができました。(K.F)

★福島市に居住する私は、今回の賠償の話は、関係ないものである。しかし、福島市内も、仮

☆テーマ・報告者・運営等への希望

\*福島医大の県民健康調査を行っている側・医大の先生

\*甲状腺検査委について

=====

【予告】

第42回ふくしま復興支援フォーラム」(2013年7月18日(木) 18時30分～)

★テーマ 「ジャーナリストから見た震災復興の課題」

★報告者 藍原寛子氏(ジャーナリスト/株)Japan Perspective News 代表取締役)

★会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」

大活動室1 MAXふくしま4F (福島市曾根田町1-18)

=====

住む人が、被害について声を上げるのは、損害が個人により大きく異なるので難しいと思いま

# 「大熊町における学校再生への挑戦」

～2年間の歩みとこれから～

7月4日(木) 18:30～

大熊町教育長 武内 敏英

はじめに

- 皆様のご支援に感謝
- 3.11以前の大熊町…(別紙1)

## 1. 全町避難

### (1) 3月11日の大震災

- 甘くなかったM9.0、震度6強(耐震工事は終了)→津波の被害
- 自宅から出勤できた最後の日

### (2) 3月12日. 運命の朝

- 早朝…全町避難指示(政府から)
- 安全神話へどっぷりの40年間
- 前夜から配車されていたバス(田村市方面へ避難)



自宅も学校(職場)も、そして町まで失ってしまった

⇒「踏むべき土」のない生活へ→疲れがとれない

## 2. 避難先での学校立ち上げ

### (1) 「学校はどうするんだ」

### (2) 町長との話し合い…3月17日夜

- ①「町づくりは人づくり、人づくりは町づくり」(町長)
- 「大熊の子どもは大熊で育てる」(教委会)
- ②学校立ち上げについて考えたこと

### (3) 学校立ち上げへの始動

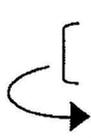
- ①3/22…会津若松市教育長へのお願い
- ②3/25…トップ会談
- ③3/26…校舎借用(幼も)

### (4) 学校立ち上げへの環境整備(3/27からスタート)

- ①市教委の全面的な支援
- ②予想を越える通学希望者
- ③4/1…合同着任式
- ④教員の宿舎確保
- ⑤4/3～4/4…会津若松市へ移動
- ⑥入園・入学式の日時、バス通への対応、学校給食←大きな課題

(5) 4/16… 合同入園・入学式

3. 寺子屋からの出発

- (1)  5/16から… パンと牛乳給食 (小・中)…冷蔵庫の確保  
6/1 から… 完全給食  
午後の授業と部活動開始

大きなじしん、つなみ、ほうしゃのう、とてもこわかったよ。  
学校にいける。ともだちにあえる。きゅうしょくをたべる。とてもうれしいよ。  
ありがとうってたくさんの人にいいたいよ。 (小1)

※《避難直後の教育委員会 (平成23年3月～7月)》

- ①委員 (5名) のうち3名はバラバラに避難
- ②4月16日 (合同入学式後) に定例委員会 …3名  
○24年度の基本方針等承認 …〈別紙2〉
- ③4月～6月… 電話連絡
- ④7月7日 … 5名そろっての定例会 (秋田市にて)

(2) より良い環境整備に向けて～教育の質の向上をめざす～

- ①新たな基本方針、各領域の重点事業  
○柔軟な教育課程→本物の体験活動

②日常化への努力←地域の応援、全国からの支援

- |                          |   |      |                                                         |
|--------------------------|---|------|---------------------------------------------------------|
| ○朝読、修学旅行                 | } | 23年度 | ※社団法人全国出版協会より<br>「第6回文字・活字文化推進大賞」受賞<br>※「大熊町学校教育への挑戦」発刊 |
| ○中体連、「おおくまふれんず」          |   |      |                                                         |
| ○学校評議員制の復活               | } | 24年度 |                                                         |
| ○教委会事務局の再編               |   |      |                                                         |
| ○中学校の移転計画                | } | 25年度 |                                                         |
| ○会津大との教育連携<br>授業へのICTの導入 |   |      |                                                         |

4. 今後の課題と方向性

- (1) 児童・生徒数の減少…〈別紙3〉  
風化が進む中で

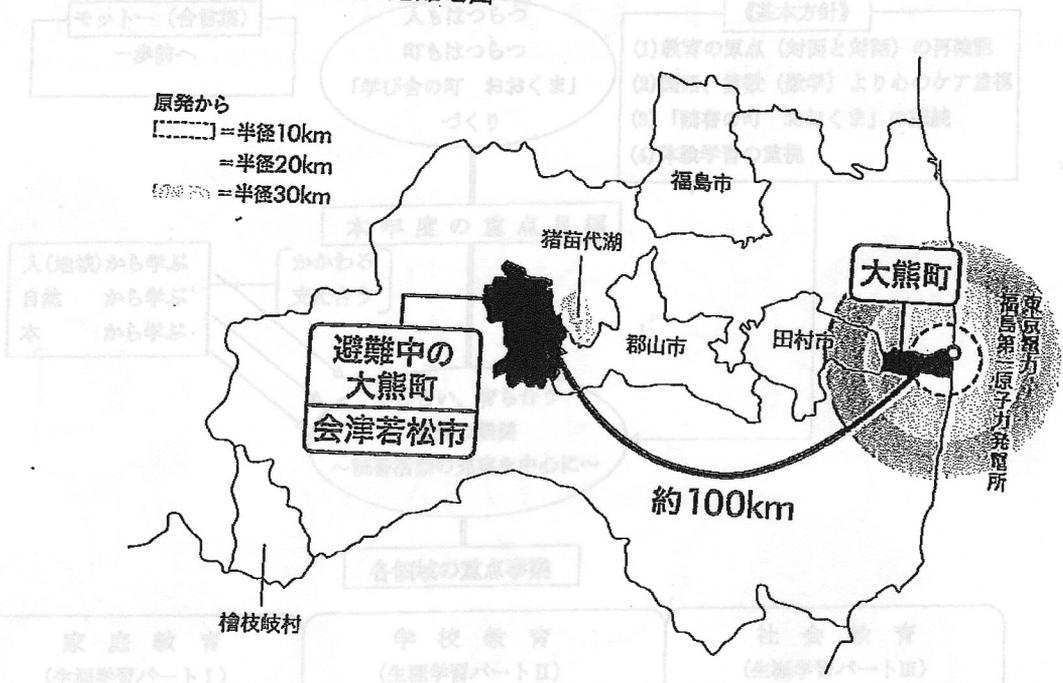
心配なことは、ずっと友だちといっしょにいられるか。  
今やりたいことは、はなれた友だちと会うということ。 (小4)

- (2) 大熊町として… 幼・小・中12年間を見通して  
(3) 次善の策として… 双葉郡全体で…

おわりに

- 続く「踏むべき土のない生活」と子どもたちの教育

福島県大熊町全町避難地図



3・11以前福島県大熊町の概要

- ・人口=約1万1500人
- ・面積=78.70平方キロメートル
- ・東京電力福島第一原子力発電所 6基中4基が町内に設置されている  
ほぼ全町が原子力発電所から10キロ圏内
- ・町予算=当初予算70億円~78億円、教育重視
- ・教育行政の中心に読書活動推進をおく

- (経過上のポイント)
- (1) 明るいまちをつとめ
  - (2) 積極にはげめつつ進捗に対処
  - (3) 机上の空論より行動・現場主義

◇次の2つは私たち教育委員会の造語です。

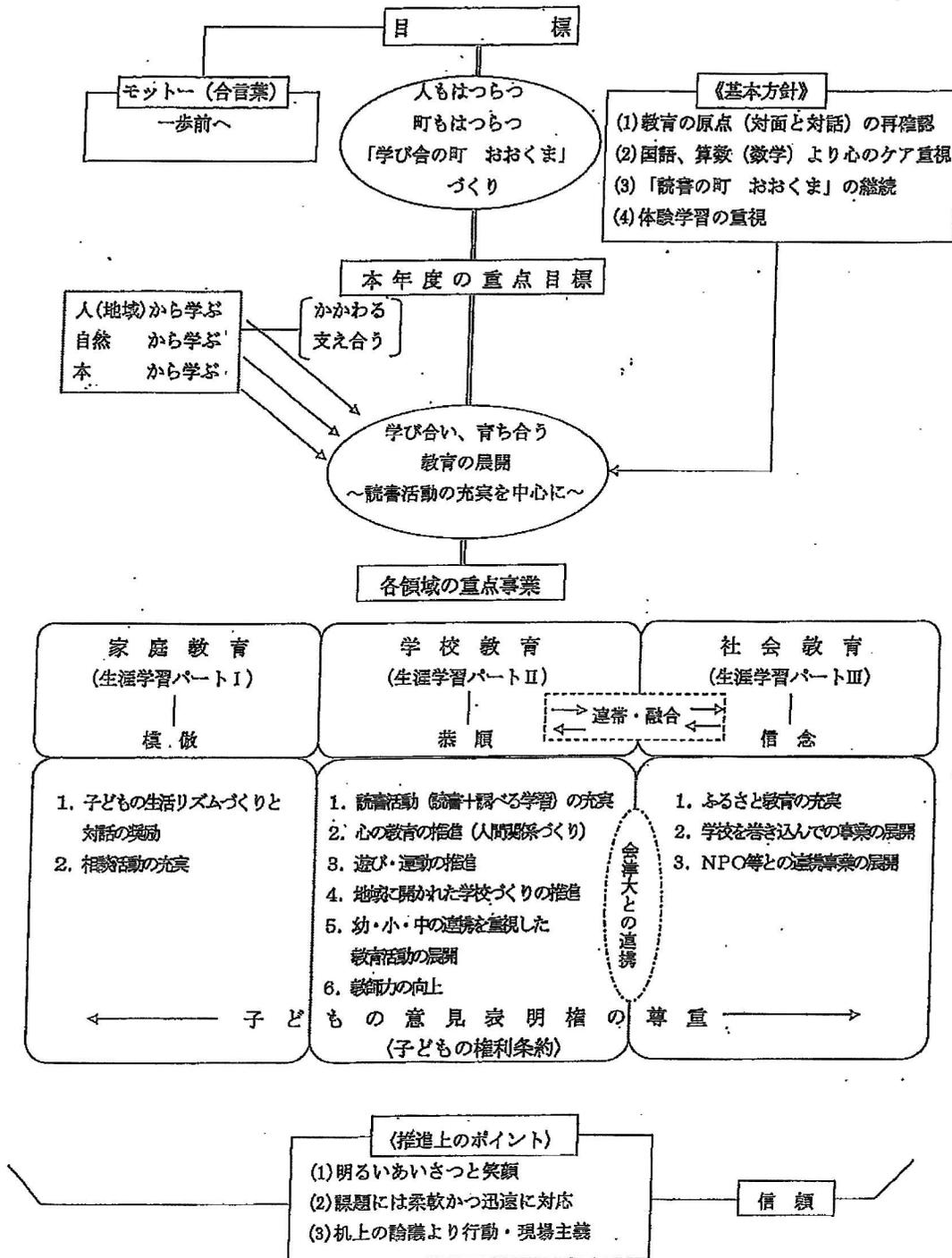
※納豆集団

納豆の豆はいくらかき交ぜてもくずれません。私たちは個人を(成員)納豆の豆に、そしてかき交ぜることを集団活動にたとえました。

望ましい集団活動を積み重ねることによって個は確立し、互いに引きの強い集団になりますし、逆に納豆集団による集団活動は望ましい集団活動を更に生み出していきます。

※下厚上薄

人間全ての領域・分野が全て得意だという人はいないでしょう。子どもたちも同様です。大熊町の学校では子ども一人一人の得意なところは手厚く指導し(下厚)、得意なところは「よしどんどんいこう」と励ましていくこと(上薄)を指導の土台にしていきます。「わかった人」より「よくわからない人」を大切に指導してまいります。



◇次の2つは私たち教育委員会の造語です。

※納豆集団

納豆の豆はいくらかき交せてもくずれません。私たちは個人を(成員)納豆の豆に、そしてかき交ぜることを集団活動にたとえました。

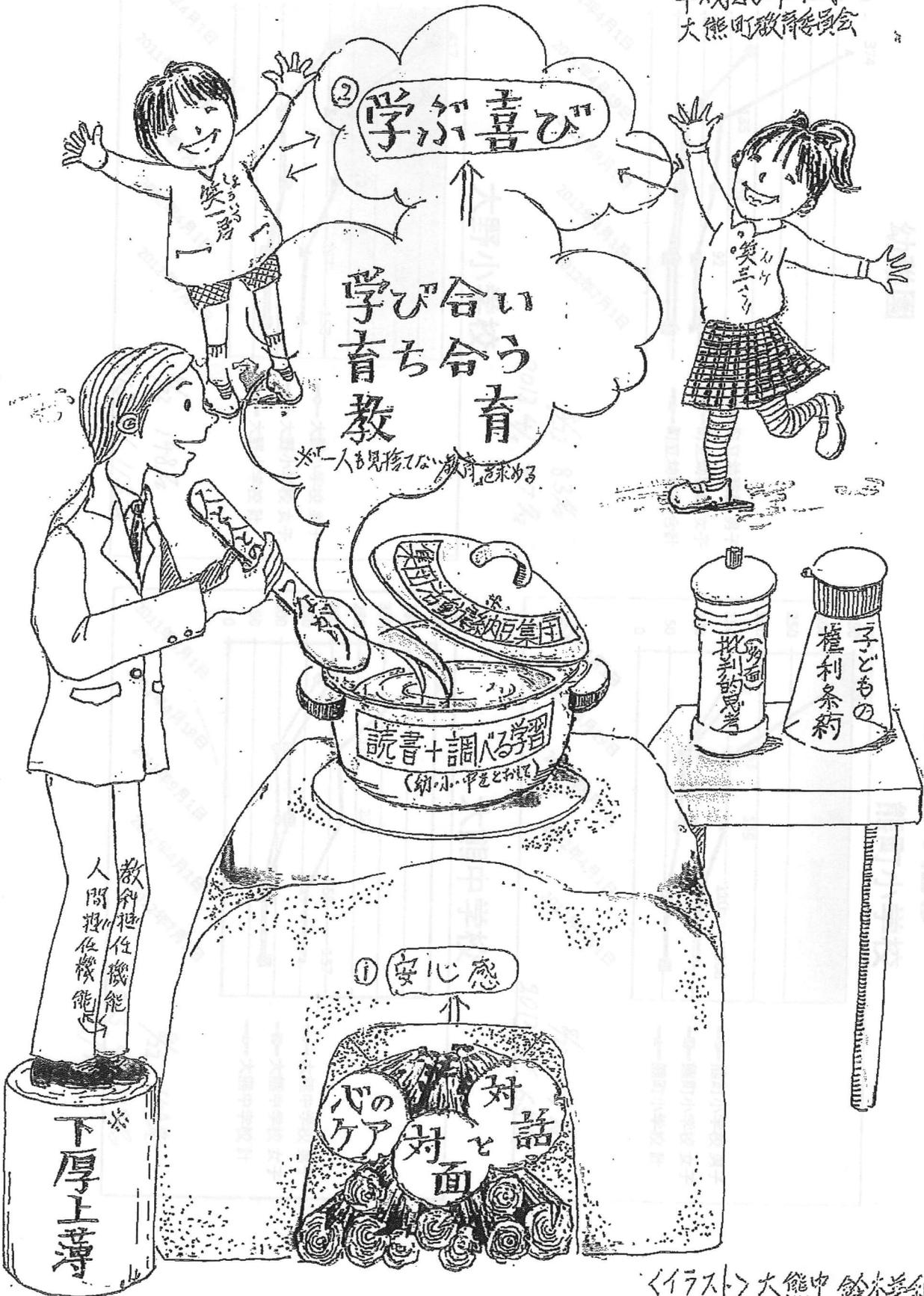
望ましい集団活動を積み重ねることによって個は確立し、互いに引きの強い集団になりますし、逆に納豆集団による集団活動は望ましい集団活動を更に生み出していきます。

※下厚上薄

人間全ての領域・分野が全て得意だという人はいないでしょう。子どもたちも同様です。大熊町の学校では子ども一人一人の不得意なところは手厚く指導し(下厚)、得意なところは「よしどんどんいこう」と励ましていくこと(上薄)を指導の土台にしていきます。「わかった人」より「よくわからない人」を大切に指導して参ります。

# 大熊町学校教育イメージ

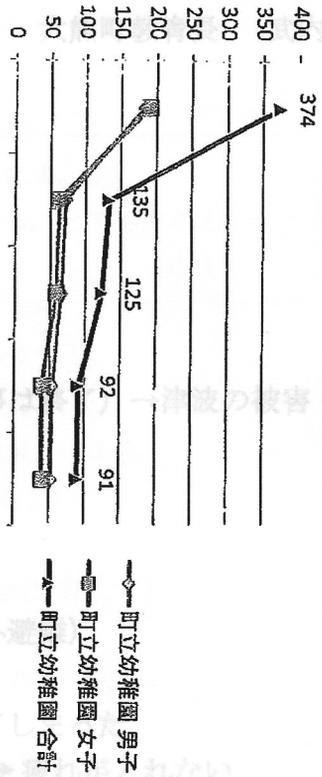
平成25年4月  
大熊町教育委員会



<イラスト>大熊中 鈴木美和 敬請  
◇裏面もご覧ください。

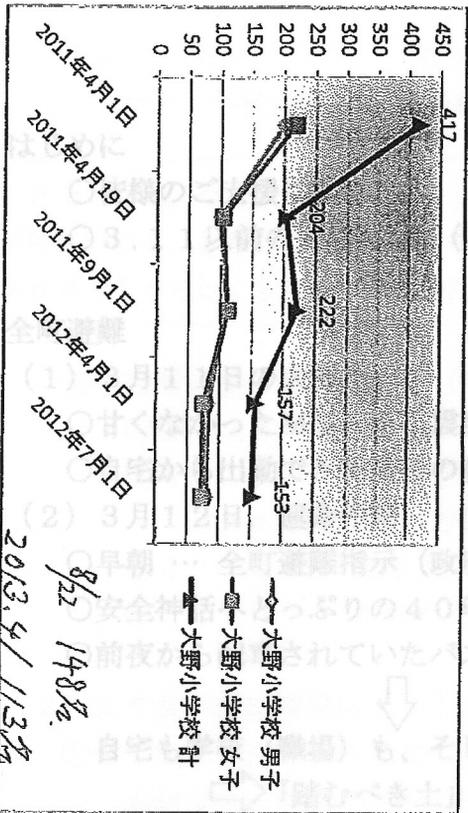
〈別紙3〉

## 大熊町立学校の園児・児童・生徒数の推移 幼稚園



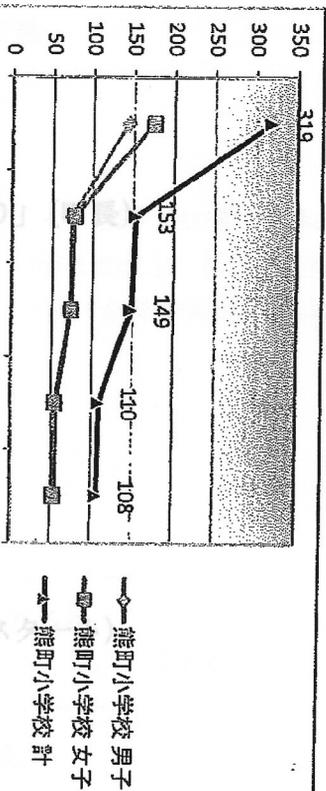
8/21 83名  
2013.4/ 47名

## 大野小学校



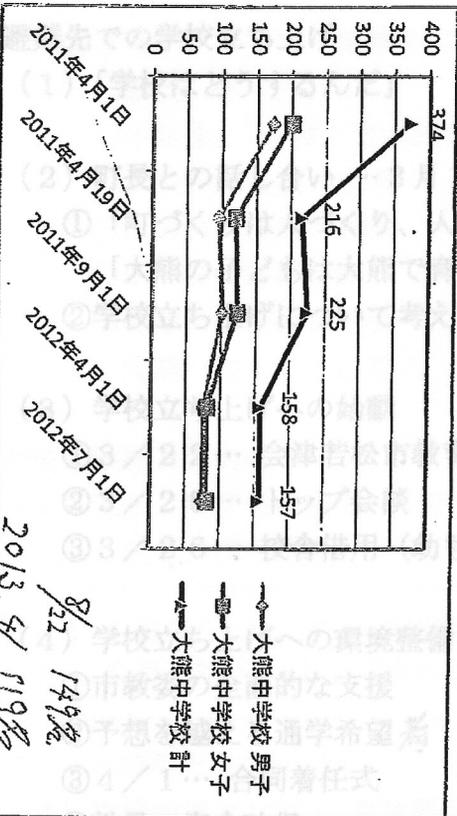
8/22 148名  
2013.4/ 113名

## 熊町小学校



8/22 107名  
2013.4/ 65名

## 大熊中学校



8/22 149名  
2013.4/ 119名